

立田先生との思い出

坂元 錬

いつもニコニコ笑顔で、その穏やかな雰囲気が好きでした。

立田先生は、生涯学習などの分野で授業をされており、教職課程を履修していた僕はその授業が大好きで前の方まで行ってお話を聞いていました。ICTに強い先生は、パソコンで動画や写真などの教材を活用し、授業を行っていました。その時、これほどまでにパソコンを使いながら授業をする先生はいなかったのが驚きでした。

そして、大学3年生の時からゼミで卒業論文指導をしていただきました。自分のテーマが音楽と社会的な影響についてであったので、先生の専門である教育とは違う分野でした。そのため、先生には迷惑をかけてしまったなと思います。それでも、僕が少しでも良い論文が書けるように、先生はいつも全力で指導してくださいました。ゼミの授業でたこ焼きパーティーをしたこともいい思い出です。

そんな中、大学4年生になり、新型コロナウイルスが流行しました。生活がガラッと変化し、もっとたくさん色んな人たちと交流をしたかったなと少し残念な気持ちでした。ゼミの卒業論文指導もリモートとなり、対面でない分、コミュニケーションを取ることが少し難しかったです。そんな中でも先生は笑顔で、指導をしてくださいました。

大学を卒業する少し前、教師の道を歩もうと考えていた自分に、先生は大学院へ推薦してくださいました。その時は自分が期待されているようでとても嬉しかったです。そして、大学を卒業後、そのまま神戸学院の大学院へ進みました。コロナによる規制が少しずつ緩和されていく中で、修士課程1年生の頃の授業は、ほとんどがリモートでした。修士論文を書くことは卒業論文を書くことよりも厳しいと感じながらも、一生懸命取り組みました。知らないことだらけで手探り状態でしたが、先生が付きっきりで指導してくださいましたため、不安も少しずつなくなり、自分なりに修士論文を書き進めていくことができました。修士論文作成のために学校現場へ行って、授業見学や現場の先生たちのお話を聞いたのも、立田先生が色々な場所にコンタクトを取ってくれたおかげです。大変感謝しております。

修士課程2年生になる頃には、先生と時々会ってご飯を食べました。今思い返すといつもお馳走になっていました、ありがとうございます。そして、修士論文は無事に完成し、口頭試問や修士論文発表会もなんとか終わることができました。人生の中で自分が修士論文を書くななんて思ってもいなかったのが、書き上げたことがなによりも驚きでした。ですが、完成することができたのは、自分が一生懸命取り組んだこと、また、それ以上に先生がいろいろなことを調べ、資料を集め、指導してくださいましたことが大きいと思います。人生の中で貴重な経験をさせていただきました。コロナによる厳しい状況の中、楽しく大学院生活を送ることができたのは、立田先生のおかげです。ありがとうございました。

立田先生、今までお疲れ様でした。ぜひ、これからも好きなものをたくさん食べてください！数年間ありがとうございました。